

# 「愛国心」反応は

教育基本法の改正で、国会提出の焦点となっていた「愛国心」に関する表現が12日、与党間で合意した。合意内容について、専門家に聞いた。

＝1面参照

## 思想良心の自由 損なわれる不安

高橋哲哉・東大教授(哲学)の話 インターナショナルな要素を入れて「愛国心」の危うさを中和した形だが、すでに行われている愛国心教育が「合法」化され、本格的に強まるだろう。国旗・国歌法の成立時も政府は「教育現場での扱いは変わらない」と答弁したが、現実には国旗掲揚の際の起立や国歌の斉唱を強制する動きが強まった。東京都教委などは基本法のお墨付きを得たと受け取るだろうし、改正されると教員処分をめぐる司法判断にも影響が出るだろう。

通知表の評価項目に「愛国心」を含める動きもすでにある。内申書で進路にまで影響が出かねない。思想や良心の自由は少数者の自由確保こそが大切で、公教育という逃れられない形で愛国心を注入するのは大きな問題がある。

## 今の時代なら 危険ではない

中嶋嶺雄・国際教養大学長の話 自分も委員の中央教育審議会が答申を出してから3年もたち、国を愛するという表現が「言葉遊び」になり、政治的な妥協の産物になったのは残念だ。

「愛国心」はファシズムの時代なら危険だが、現在のよ様に民主主義と個人主義が貫徹している社会では、使ってもまった

く問題はない。両大戦間の1920年代に、米国の社会学者も「愛国心は郷土愛から出てくる健全な発露だ」と言っていた。一方、「他国を尊重し」という表現もあり、真の意味での異文化理解につなげるべきだと思う。

ただ、根本の議論は教育をどうするかであるべきだ。政治レベルで教育の荒廃、とくに高等教育の危機をどこまで本気で直すつもりがあるのかを見守りたい。

## 在日コリアン 生きにくく

在日韓国人の李博盛(リボクソン)護士の話 娘が通う福岡市の小学校が02年に、通知表で「愛国心」を評価した際に、異議を申し立てて項目を削除させたことがあった。これでは、在日コリアンはますます生きにくくなる。基本法が改正され、同じようなことが我が身に降りかかってくれば、一つ一つ保護者が解決していくしかない。

「伝統と文化」との文言があれば、これまで以上に、教育の現場に日の丸、君が代、天皇といった要素をいかにどう詰めることができるようになる。愛国心が、子どもを指導する際に評価の対象となるのは避けられない。内心反対しているも、生活がかかっている教員は職務命令を受けると、従うほかない。悔しいし、残念だし、心配だ。